



第4回

盛岡国際俳句大会

The 4th Morioka International HAIKU Contest

第四回盛岡国際俳句大会
令和四年十一月二十日（日）

盛岡劇場

入選作品集



盛岡国際俳句大会とは

日本文化を象徴する芸術である俳句は、今では「HAIKU」と呼ばれ、世界各地で親しまれていることをご存知ですか。

盛岡国際俳句大会は二〇一九年の盛岡市市制施行一三〇周年を記念して始まった日本語と英語による俳句の大会です。

盛岡市は山に囲まれた風情ある街並みの中を、鮭が上る川が流れる、自然豊かで四季の彩りを感じられる街です。また、多くの偉大な先人を輩出した歴史と文化が薫る街でもあります。

そして俳句は、そうした自然や歴史を切り取り、五七五のたった十七文字で表現する最も身近な芸術なのです。

盛岡に住む人が、自分の街を見つめ直し、その魅力を再発見したり、盛岡を訪れた人が、その魅力を知り、好きになってくれたり。

この大会がそんなきっかけになってくれれば幸いです。

盛岡国際俳句大会実行委員会



ごあいさつ

盛岡国際俳句大会実行委員会

会長 谷藤裕明

本市は、四季の移ろいを身近に感じられるまちであり、また、俳人である山口青邨をはじめ、石川啄木や新渡戸稲造など、文学に造詣の深い先人が残した歴史文化が息づくまちであります。

盛岡国際俳句大会は、俳句を通して盛岡の魅力を再発見し、国内外に発信することを目指して二〇一九年から開催しております、第四回となる今大会は、前回大会を上回る、大変多くの方々から投句をいただいたところです。

これもひとえに、盛岡を、そして俳句を愛する皆様の想いと、選者の先生方をはじめとする大会関係者各位の御指導・御協力の賜物であり、皆様の御尽力に深く感謝を申し上げます。

この大会を機に、盛岡市民の皆様には、自分の住むまちに誇りを持ち愛着を深めていただくこと、国内外の皆様には、盛岡の魅力に触れ、より一層知っていただく機会となりますよう御期待申し上げます。さらには、俳句を通じた繋がりをきっかけに、多くの皆様に、盛岡のまちに心惹かれ、共感する盛岡ファンになっていただければ幸いに存じます。

結びに、投句いただいた皆様をはじめ、関係各位の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、挨拶いたします。

第四回盛岡国際俳句大会 投句規定

投句募集期間 令和四年六月一日〜九月九日

❖日本語部門

【一般の部 自由題(自由題材の四季の句)】

選者 夏井いつき (俳句集団「いつき組」組長)

太田土男 (「草笛」代表)

高野ムツオ (「小熊座」主宰)

賞 大会賞一作品、選者賞二作品、特選六作品、

入選六十作品

【一般の部 盛岡題(盛岡にちなんだ四季の句)】

選者 白濱一羊 (「樹氷」主宰)

賞 大会賞一作品、盛岡市長賞一作品、

特選一作品、入選二十作品

【ジュニアの部】

選者 白濱一羊 (「樹氷」主宰)

及川真梨子 (「小熊座」編集長)

賞 大会賞一作品、文京区長賞一作品、入選十作品

❖英語部門

選者 マイケル・ディラン・ウエルチ (俳人)

木村聡雄 (俳人 国際俳句交流協会事務局長)

賞 大会賞一作品、特選五作品、入選十二作品

※ 漢字は新字体で統一しています。

【日本語部門】

◇大会賞

自由題 夏井いつき 選

みちのくの一時間の春の影

東京都 曾根新五郎

盛岡題 白濱一羊 選

感情線ばかりが長し啄木忌

北上市 佐々木清志

ジュニアの部 白濱一羊 選

涼風や水面に何を描くのか

盛岡市 三浦琉維

【日本語部門】

◇大会特別賞

盛岡市長賞 白濱一羊 選

母の陰もらふ仔馬や馬祭

盛岡市 澤口航悠

文京区長賞 及川真梨子 選

盆の日や祖父母の姿畑へと

盛岡市 見澤結愛

【日本語部門】

◇選者賞

自由題 太田土男 選

子の崩す積木の街や敗戦日

東京都

石崎宏子

自由題 高野ムツオ 選

手甲して鬼の手となり鬼剣舞

紫波町

三繩美和子

日本語部門

◆一般の部 自由題

特選

夏井いつき 選

偏屈な形の儘の棚田搔く

千葉県 長尾登

特選

夏井いつき 選

恵方とてただ風の吹く山河かな

盛岡市 小野睦子

特選

太田土男 選

鶴来しと防災無線報じけり

神奈川県 塚本治彦

特選

太田土男 選

初盆や母のレシピのケーキ焼く

盛岡市 二藍

特選

高野ムツオ 選

夜仕事や沢内甚句口遊み

東京都 鈴木綾子

特選

高野ムツオ 選

岩手山に雪くるまでと鋤洗ふ

花巻市 高橋和枝

◆一般の部 盛岡題

特選

白濱一羊 選

ブロンズの賢治へふはり六花

盛岡市 八重樫美佳

◆一般の部 自由題

入選

夏井いつき 選

雪に碑をうづめ望郷詩人かな

大阪府 今井文雄

ピアニカのドにドのシール草の花 奥州市 里館園子

黒牛の腹這ふ茅花流しかな

青森県 吉田千嘉子

墓洗ふ雨に力を借りながら 花巻市 土川喜代子

青梅の産毛つめたき鼻の先

神奈川県 巴里乃孀

流星を数えるから家が遠い 久慈市 中澤環魚

法堂を睥睨しつつ扇風機

奥州市 阿部靖

秋めくや二円切手の淡き色 盛岡市 工藤陽子

走り根の幾重に御薬園涼し

盛岡市 川道蓉子

四十四田放水に散る桜かな 八幡平市 里山遊子

鶴来しと防災無線報じけり

神奈川県 塚本治彦

東風吹くや海の字多き出席簿 秋田県 稲畑とりこ

はんぎきの水はんぎきに凭れある

千葉県 千葉信子

夏出水馬頭観音だつた石 奥州市 七色しぐれ

秋の虹爪切りに行く日曜日

矢巾町 こんぺいとう

あめんぼや水をきれいにする仕事 一関市 水鏡新

市役所に長寿社会課木々芽吹く

盛岡市 木関偕楽

天高しフェンスに鳩を避ける釘 東京都 高橋寅次

コンセントの火花ちかつと百合香る

盛岡市 伊藤恵美

日本語部門

◆一般の部 自由題

入選

太田土男 選

天の川夜の電車は透きとおる

茨城県 館健一郎

岩手山飛び越えようとばった跳ぶ

盛岡市

夏谷胡桃

鎮魂の防潮堤に蟹出づる

青森県 西鯖男

それぞれの闇を見てみる蛍狩

滝沢市

三角尚子

長き脚放埒に組み巴里祭

千葉県 長尾登

無言館出でし瞬間蝉時雨

一関市

沖田誠子

遍歴の果ての他郷や啄木忌

千葉県 長尾登

大夕焼戦争色と重なりし

久慈市

米内幸子

晩夏光少年の弾く街ピアノ

盛岡市 兼平玲子

星涼し体ひとつを楽器とし

盛岡市

二階堂光江

日焼子の眼や太陽に愛さるる

新潟県 伊藤一二三

入籍のふたり玉蜀黍かじる

富山県

満保千里

七人の小人隠るるチューリップ

福岡県 川口茂則

百ひらき千のつぼみの椿かな

神奈川県

英龍子

万緑を越えて行きしか山頭火

盛岡市 谷川紅

春時雨森の匂いの書肆覗く

一関市

水鏡新

市役所に長寿社会課木々芽吹く

盛岡市 木関偕楽

岩手山に雪くるまでと鍬洗ふ

花巻市

高橋和枝

世界ぜんたいの幸福月仰ぐ

一関市 佐藤玲子

しばれだなやべも居ねくて静かだなや

奥州市

高橋瞳

日本語部門

◆一般の部 自由題

入選

高野ムツオ 選

種袋立てて一列蒔き終はる

宮古市 佐々木俊子

白鳥のいよいよ白し茜空

盛岡市 村田素有

東京へ繋がる線路灼くるかな

奥州市 小野寺昭次

恵方とてただ風の吹く山河かな

盛岡市 小野睦子

天の川夜の電車は透きとおる

茨城県 館健一郎

古戦場真つ平らなり夏の雲

北海道 村瀬ふみや

鎮魂の防潮堤に蟹出づる

青森県 西鯖男

岩手山飛び越えようとばった跳ぶ

盛岡市 夏谷胡桃

雲踏んで来て片隅の登山靴

千葉県 長尾登

天界のものと聴ゆる祭ごゑ

一関市 小野寺東子

日焼子の眼や太陽に愛さるる

新潟県 伊藤一二三

それぞれの闇を見てゐる蛍狩

滝沢市 三角尚子

姫神山や墓じまひする墓洗ふ

東京都 松橋晴

名も知らぬ山に囲まれ蕎麦の花

宮城県 林静江

この風は賢治の風か黍嵐

奥州市 鎌倉道彦

一片の雲となりたき木の葉かな

神奈川県 英龍子

山繭のどこへも行かず浅みどり

千葉県 千葉信子

鈴の音の涼しく神を呼びにけり

栃木県 野乃かさね

みちのくの風は蜻蛉の羽根の音

神奈川県 三玉一郎

日本語部門

◆一般の部 盛岡題

入選

白濱一羊 選

乗り継ぐは第三セクター梅雨夕焼

福島県 言成

葉桜や行列でできるじゃじゃ麵屋

盛岡市 太田加留子

チータンて何でしょうかと新社員

盛岡市 十月小菘

野外劇テントめくれば八幡宮

盛岡市 竹鼻裕子

満月や番屋の楼の長さ影

盛岡市 十月小菘

歌集閉じ詰じてみる啄木忌

盛岡市 竹鼻裕子

孫よりも息子大の字夏座敷

盛岡市 上野空

盛岡の駅へ女の頬被り

雫石町 杉田春雄

かざす手に降る盛岡の雪の遺書

東京都 曾根新五郎

牽牛花残る町家の格子窓

盛岡市 阿部ゆき子

盛岡さ出はる買い初めまんつ晴れで

千葉県 長尾登

水鳥の個々に名前があつて秋

愛知県 加納輝一

市庁舎の裏手は土塀柳絮舞ふ

盛岡市 佐藤明彦

指先のよろこぶ小石秋の川

東京都 秋山英子

風光る川岸をゆく園児帽

矢巾町 及川恵子

芽柳の垂れきて撫でる擬宝珠かな

盛岡市 福田栄紀

瓦斯灯の城下さまよふ雪女

盛岡市 阿部野の女

ふりかへる二度泣き橋や秋夕焼

奥州市 遠藤力オル

雪月夜街なかの赤レンガ館

矢巾町 こんぺいとう

着ぶくれてシネマへ急ぐ夜勤明け

盛岡市 十月小菘

日本語部門

◆ジュニアの部

入選

白濱一羊 選

花火見る特等席は父の肩

水槽のえびの数減る梅雨の空

葉が染まる戻らぬ夏がこいしくて

「なんもねえ」それが口癖僕の夏

学校のプール長いなおぼれそう

入選

及川真梨子 選

せわしい世流れるままに天の川

もりおかの樹齢重ねて夏木立

田んぼ道筆箱のなるランドセル

アイス食べ自分のやる気追いかける

サケの背を紅葉がそっとつかみとり

盛岡市 佐々木心海

盛岡市 小原碧生

滝沢市 佐々木俊輔

滝沢市 小田島甲斐

盛岡市 伊藤煌凌

盛岡市 佐々木颯斗

盛岡市 小田嶋佑

盛岡市 津村風亜

盛岡市 渡邊ひろか

盛岡市 中野杏咲

文京区と盛岡市の絆

歌人、詩人、評論家として知られる石川啄木は、岩手県盛岡市日戸で生誕し、文京区小石川の地においてわずか26歳の若さで亡くなりました。この縁から、2019年2月20日両都市は永続的な交流が図られることを願い、友好都市提携しました。

これまでの交流

▶ 友好都市提携調印式



石川啄木のご親族立会のもと、両市区長や議長など約100名の出席者が集まり、調印式が行われました。

▶ 啄木学級 文の京講座



盛岡市と玉山村の合併(H18.1)を機に、文京区において「文の京講座」を開催し、文京区民をはじめ、首都圏の方々にも広く石川啄木の魅力を発信しています。

▶ 盛岡さんさ踊り



文京区民が来盛し、盛岡さんさ踊りに参加したり、「文京さくらまつり」でミスさんさが踊りを披露するなど、地域文化を通じた交流を行っています。

▶ 産学官連携



文京区内4つの大学と連携し、玉山村の農業資源の掘り起こしと大学の知見を活かした農業の発展を目的に、各大学の学生がフィールドワーク等の調査活動を実施しています。

【英語部門】

Judges: / Michael Dylan Welch, Kimura Toshio
Japanese Translation: / Kimura Toshio
選者 / マイケル・ディラン・ウェルチ、木村聡雄
邦訳 / 木村聡雄

【Grand Prize】ビクトリア市長賞

マイケル・ディラン・ウェルチ選

Sasha A. Palmer アメリカ

shooting star
the brush of your sleeve
against mine

流れ星
あなたの袖が
私の袖に

This subtle and quiet poem might take place at a beach by the ocean, but it could be anywhere. We often see shooting stars as part of the Perseid meteor shower, making this a summer season word in the northern hemisphere. The brush of a sleeve brings intimacy to the poem's setting. We are not told if this sleeve belongs to a friend or a lover, or perhaps a child in our care, but that personal connection seems to ask, did you see that? In that touch, the moment becomes shared. And now the poem shares that moment with you and me as readers.

— Michael Dylan Welch

この繊細で静寂に包まれた句は海辺の砂浜のことかもしれないが、また他のどんな場所でもあり得るだろう。北半球の夏の季語ともなっているペルセウス座流星群の流れ星を目にすることは珍しくない。半袖の端がこの句の情景を親密さ溢れるものにしてしているだろう。この袖が友人か恋人のものか、あるいはもしかすると自分たちの子どものものかは書かれていない。しかしながらそうした個人的関係性のあいだで、ほら見た？と尋ねている。袖が触れて、その瞬間が共有される。すると読者であるあなたと私との間でも、今この句をとおして、その瞬間が共有されるのである。

— マイケル・ディラン・ウェルチ

【Special Selections】特選

マイケル・ディラン・ウェルチ 選

Goran Gatalica クロアチア

lifting fog — the mustangs at full gallop

湧き立つ霧— 野生馬たちの 全力疾走

霧の静けさが、この句ではあふれる活気へと転換されている。どこで起きたことかは分からない。とはいえ馬たちがはやりたって駆けて行くのは確かである。それは、霧が沸き上がって来るからにはほかならない。霧を愛するようなこうした行動は、季節の変化ではないとしても気分の変化を表している。さらにこの活力はその光景を眺めるわれわれにも伝わってくる。読者はそれぞれ独自に句の状況を解釈するので、いくつものさまざまな場所が想像できるだろう。たとえばスコットランドの不毛の荒地とか、北米の緩やかな丘陵などである。

Cezar S. Ciobîcă ルーマニア

summer's end a skipping stone left on my bro's grave

夏過ぎて 水切り石残る 兄弟の墓

この句の中でもっとも惹きつけられる言葉は「兄弟」(bro)である。これは日常語でよく聞く言い方で親友や仲間を指し、必ずしも実際の兄弟でなくても構わない。今年の夏というよりおそらくは過ぎ去った夏に、そうした友人同士で水切り遊びをしたのだろう。しかし、もはや皆で一緒に遊ぶことはできない。自然の中で夢中になって水切り遊びで楽しい時を一緒に過ごした様子に加え、この句の「兄弟」の用い方は、友情や愛情さらには憧れをも示している。

【Special Selections】特選

木村聡雄 選

Baisali Chatterjee Dutt インド

rain-drenched laundry I carry the monsoon inside

雨に濡れた洗濯物 モンスーンを 家に取り込む

洗濯物を干したままでうっかり雨に降られてしまう。...。そんな日常の1コマを題材とした作品です。モンスーンは夏や冬の季節風のことで、夏場の雨季の雨を指すこともあります。作者の想像の中では、濡れてしまった洗濯物からのしあたりはモンスーンの雨のしずくとなり、家に取り込んだあとの湿った服の内側には雨を降らせた季節風がまだ静かに潜んでいるようです。

Neal Whitman アメリカ

the jazz station cuts in and out blue Monday

ジャズラジオ局 聞こえては消え 憂鬱な月曜

ジャズなどの音楽を専門とする比較的小さなラジオ局があります。たとえばドライブや車での通勤途中、電波の状況によって放送が受信しにくいという経験もあることでしょう。月曜日という誰でもいくらか憂鬱さを感じるかもしれません。一週間は始まったばかりですが、まだ調子が出ない気分を、お気に入りのジャズがかすれてとぎれとぎれの様子に重ねています。

Benjamin Blasi スイス

sunlit shore the weight of the spring sea that knows no border

日の当たる岸 春の海の重さ 国境を知らず

待ち遠しかった春の日、晴れた海岸に立って海を見渡しています。のどかさの中に身を置けば、自身のみならず海も波もどこかゆったりとしてけだるそうに思われます。どこまでも広がる海に境は見あたりません。けれどもこの海の向こうでは今も国境を巡る争いが続いています。春の海を目の前にして、争うことの虚しさが伝わってきます。

【Honourable Mentions】入選

Kyla Gruta フィリピン

bronze medalist	銅メダリスト
happier than	銀の選手より
the one with silver	嬉しそう

Alvin B. Cruz フィリピン

the stillness	止まったままの
of her rocking	彼女の揺り椅子
chair	ちぎれ雲
parting clouds	

Alvin B. Cruz フィリピン

apple blossoms	りんごの花
she gets a second	彼女は別の医者
opinion	意見も

Nina Kovačić クロアチア

autumn rain	秋の雨
the river pours its	川はその色
color into the sea	海へと注ぐ

Srinivasa Rao Sambangi インド

forget-me-nots	忘れな草
the garden mower	庭の草刈り人
put to rest	ひと休み

Li Xiao ロシア

winter sun...	冬日和...
choosing peaches	桃を選ぶ
for a pregnant	懐妊した娘に
daughter	

Eduard TARA ルーマニア

daisy petals	ヒナギクの花びら
peace war peace	平和 戦争 平和
war peace	戦争 平和

Stoianka Boianova ブルガリア

autumn fog	秋の霧
a mountain	山頂見えぬ山
without peaks	遠く
in the distance	

Neal Whitman アメリカ

the wave	波は
returns to the sea	海へと帰りゆく
no regrets	未練なく

Ash Evan Lippert アメリカ

thunder	雷鳴
deep in the roses	薔薇の奥には
a wild scent of	虹の野の香り
rainbows	

Anthony Q. Rabang フィリピン

on the churchyard	教会墓地
kneeling...	ひざまずけば...
pigeons join me	鳩もともに

Rob Scott オーストラリア

winter doldrums	冬の憂鬱
the wind	風が
reads my mind	わが心読む

盛岡市のシンボル(市の花・市の木・市の鳥)



盛岡市の花『カキツバタ』

さわやかな初夏(6月中旬頃)に紫色の花を咲かせます。古くから市内の各地に自生しており、山岸に群生しているカキツバタは、県の天然記念物に指定されています。アヤメ科。多年草。



盛岡市の木『カツラ』

山地に自生する落葉樹で、高さ30メートル近い大木となります。枝が垂れる「シダレカツラ」はこの地方特有の変種で、肴町と大ヶ生の瀧源寺、門のシダレカツラは国の天然記念物に指定されています。カツラ科。



盛岡市の鳥『セキレイ』

市街地を流れる中津川周辺などでよく見られる濃淡のコントラストが美しい鳥です。オスとメスの仲がよく水をたたくように尾を上下させて飛ぶ姿は、とてもスマートです。セキレイ科。

主 催 盛岡国際俳句大会実行委員会

共 催 盛岡市 IBC岩手放送

後 援 岩手県 盛岡市教育委員会 公益財団法人盛岡市文化振興事業団

公益財団法人盛岡国際交流協会 現代俳句協会 公益社団法人俳人協会

国際俳句交流協会 公益社団法人日本伝統俳句協会

俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会

岩手日報社 盛岡タイムス社 NHK盛岡放送局 テレビ岩手

めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手 岩手ケーブルテレビジョン